

## ドキマゾ(吟味) ～ユーオーディアを放つ～

Ⅱコリ13：3-9  
Ⅱコリ2：14-17

ここに風景が描かれた1枚の絵があります。これを1人が言葉で説明し、他の人は絵を見ないでその説明だけを聞いて絵を描きます。するとどうでしょう。誰一人全く同じ絵を描くことはできません。どうしてこのようになるのでしょうか。それは、相手が伝えたことに対して一人ひとり受け取り方が違い、1つの事を聞いても様々なとらえ方をしてしまうからです。確かに相手の意図していること、共通認識があればいくらか思いに近づけることはできます。しかし、この話からもわかるように、同じことを聞いてもみんなが同じように理解できるとは限らないのです。ですから、私たちは注意しなければいけません。そうでないと、私たちは相手を否定し自分の思いを押し付けてしまったり、相手が理解しないことに腹を立ててしまったりしかねません。一人ひとりの受け取り方、解釈の違いは、私たちの周囲にあふれる情報により変えられる価値観の違いとも言えるでしょう。自分の考えを持つことは良いことですが、それがひとりよがりなものになってはいけません。今、あなたの思いを支配する心の中心、心の王座には誰が座っていますか。あなた自身ですか。キリストですか。それとも人ではなく物が置いてある状態ですか。あなたの心の王座は何かの情報が入るたびに座る人が変わってはいませんか。私たちクリスチャンはいつも心の王座にイエス様を置きたいと願っています。しかし、ついついイエス様を押しつけて自分が座ってしまうことがあります。にもかかわらず、私たちは想定外なことが起こると「やっぱりイエス様座ってください」と平気で言うてしまうのです。もちろんそのようにしてでもイエス様を心の中心に置くことは良いことです。しかしそういうことを繰り返してはいけません。私たちの心の中心はいつもイエス様でなくてはならないのです。コリント人への手紙の著者は聖書を通して今を生きる私たちに、なぜ心の中心にイエス様をおかなくてはならないかを伝えていきます。今日はそのことについて語ります。

まず、あなたに質問です。暗いところで明かりを灯すとき、どこに灯せば一番明るくなるでしょう。隅っこでしょうか。上の方でしょうか。それとも真ん中でしょうか・・・正解は真ん中です。中心におけば全体が照らされて一番明るくなります。また、光と闇について聖書には『光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった(ヨハネ1：5)』とあります。私たちは問題や葛藤、不安、恐れにより心に闇を生じさせてしまいます。この心の闇(人の罪や罪のうちに住む悪魔)に打ち勝つには、心の中心に光を置くことが必要です。あなたの心は今、闇に支配されていませんか。感情の下にある良心を失っていませんか。赦されていない罪や傷があると闇が生じます。心の闇があるかないか、また心の王座に誰が座っているかを吟味していく必要があります。これは神様に祈ってしてもらうことでなく、自分自身がすることです。そして、もし心に傷、闇があるならば、素直に祈って取り除いてもらいましょう。私たちはキリストとともに十字架につけられました。それはキリストが私たちのうちに生きておられることを意味します。ですから私たちは心の中にイエス様を置き、心によぎる悪魔の言葉によってイエス様を王座から落とさないようにしなければなりません。

そうして救い(キリスト)が顕されるために・・・①**キリストの香りを知る**。つまり、みことばを通して神様のこと、イエス様のことをもっとよく知ることが大切です。あなたは神様がどれだけ愛してくださっているか知っていますか。私たちは隣人と接するとき、イエス様がどの様になさったかを思い行動しようと思しますが、もしあなたがイエス様のことを知らなかったなら、どうして真実の愛を伝えていくことができるでしょうか。私たちはすでにキリストによる勝利の行列に加えられています。キリストの知識の香りを放って行動しましょう。②**ユーオーディア(=最高の香り)になる**。あなたの口から出る言葉、その態度は芳しいキリストの香りを放っているでしょうか。また、あなたの目は輝いていますか。心に覆いが掛けられてはいませんか。詩篇57：7-8からダビデは悩んでいるときにこそ主に賛美し、自分に命令し揺るがない心を保とうとしたことがわかります。もし、今あなたの心に覆いがかかっているのならば、主に心を向けましょう。人が主に向くなら、その覆いは取り除かれるからです。そして、心の中心に主を置くなら、心は揺るぎません。揺るがない心を持ち、あなたのユーオーディアを放ちましょう。③**混ぜ物をしない**、言葉にあなたを入れない。あなたはこれからの人生をあなたの考えによって生きますか、それともみことばによって生きますか。Ⅱコリ13：3で著者はキリストが私によって語ると思っています。隣人と接するとき、その言葉にあなたの考えは必要ありません。真心から、また神によって、神の御前で、キリストにあって語りましょう。

私たちがこれから多くの人と出会って福音を伝えるとき、あなたの思いでなくキリストの思いで語っていきましょう。人が良しとすることが神様にとって良いこととは限らず、人がダメと思うことでも神様は良しとなさるかもしれないのです。いつもあなたの心の中心に主を置けば、それらを見極めることができるようになるのです。心の中心に主がおられるか毎日吟味していきましょう。そうすればあなたが接する人々はあなたの語る言葉をあなたの言葉としてではなく、神の言葉として聞くことになるでしょう。そして、そのときあなたはキリストの芳しい香りを放つ者となっていることでしょう。

もしも、あなたが今日のメッセージに対して、「出来ていない」と思っても悔やむことはありません。神様はそのことを責める方ではありません。神様はいつも先のことをご覧になって、今はダメでもこれからあなたが輝くことを願っています。ですから、心開いて主を見上げて歩いていきましょう。(要約者:金光 瞳)